

つくば市の取り組み

＜つくば市の防災教育＞

つくば市では、東日本大震災を受け防災教育・防災管理教育等に関する有識者会議を設置し、下図のとおり防災教育の指導内容イメージを作成。また、つくばスタイル科における防災教育では、災害時に活動できる総合的な力を育むことを目指している。

参考:「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理教育等に関する有識者会議報告書」

つくば市防災教育の指導内容イメージ

ICTの活用

- 発達の段階ごとに、必要な知識を身につけさせる。
- 主体的に行動する態度や支援者としての視点を育成する。

In,About,For
にのって

中学校段階

- 過去の災害や他の地域の災害例から危険を理解し、災害への日常の備えや的確な避難行動ができるようにする。
- 学校、地域の防災や災害時のボランティア活動の大切さについて理解を深める。

発達段階に応じて、内容の充実をはかる

小学校段階

■低学年

教職員や保護者など多くの大人の指示に従うなど適切な行動ができるようにする。

■中学年

災害の時に起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができるようにする。

■高学年

日常生活で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるよう自分の安全だけでなく、他の人々の安全にも気配りができるようにする。

つくば次世代型スキルと防災教育

つくば市のつくばスタイル科における防災教育では、つくば次世代型スキルの育成を基盤にして、災害時に活動ができる総合的な力を育むことを目指しています。



<取り組み概要>

つくば市立小田小学校〔4年生/16時間〕

守れ！ぼくらの命

【目標】

災害等の危険事象を認識し、自ら安全について考え、命を守るための行動ができるようにする。

【授業概要】

- 3.11の体験、各地の異常気象の情報をもとに、異常気象についての危険性を認識する。
- 命を守る方法について各自、グループで考え、家庭に持ち帰り、実生活においての危険箇所をリサーチし、まとめる。
- まとめた内容を発表し、生徒たちの共通理解と、地域全体の危険への理解を深める。
- 命を守る上で大切だと考えることを、地域等へ発信していく。



- 異常気象についての一般的な知識から、実生活にまで深化させることで、命を守ることの重要性について主体的に考えることができた。
- 児童が家庭で危険箇所について状況をリサーチする過程をととして、家庭及び地域における防災力強化の一助になっている。
- 異常気象や災害に関する情報をICT教材から学ぶことで、イメージをリアルに感じさせることができた。

つくば市立桜南小学校〔5年生/12時間〕

防災!!わたしたちにできること

【目標】

災害等の危険事象を認識し、自らできることを考えさせる。地域の一員として自分たちの生活を守る意識や防災意識を持った生活をする態度を育む。

【授業概要】

- 3.11の体験、各地の異常気象の情報をもとに、異常気象についての危険性を認識する。
- 生活を守るためにどのようなことをすべきか、グループで考え、防災劇にしてみよう。
- 防災劇をもとに、児童全体で災害時の動きについて共有、ディスカッションをする。
- 自分たちができることを地域等へ発信していく。



- 異常気象や災害に関する情報をICT教材から学ぶことで、イメージをリアルに感じさせることができた。
- 生活を守るため、防災意識を高めるための防災劇づくりにおいて、地域を歩き、実生活における危険箇所や対応方法を学ぶ。（デジタルカメラ等で情報収集）
- ゲストティチャー及び学級におけるディスカッション活動をととして、災害時の行動の在り方や判断方法などのスキルを深化することができた。

つくば市立筑波東中学校〔1年生/16時間〕

自然災害から身を守るために

【目標】

災害等の危険事象について課題研究をし、災害時の避難行動、防災活動、ボランティア活動など他者のためにできることを考える。地域社会の一員としての自覚を深める。

【授業概要】

- 3.11の体験、5.6の竜巻被害、各地の異常気象の情報をもとに、異常気象についての危険性を認識する。
- 防災の視点から「竜巻発生メカニズム」「未来に残そう」「学校が指定避難所になったら」の3つのテーマで、課題研究に取り組む。
- 研究内容を共有し、自分たちにできることを考え深化させる。
- 研究成果を踏まえて地域へ効果的に発信し、地域全体の防災力を高めよう。



- グループでの研究活動やディスカッションをととして、適切な避難行動や地域防災のあり方について理解と行動力を高めることができた。
- テレビ電話を活用して他の被災地と情報交換をすることで、視野を広げて学びを深めることができた。

つくば紫峰学園つくば市立小田小学校学習指導案>

第4学年1組つくばスタイル科学学習指導案

指導者 T1:中山 恵子 T2:吉原 一史 T3:中島 昌弘

1 単元名 守れ！ぼくらの命

2 目 標

- 防災の学習を通して、命の大切さに気づくことができる。(B2)
- ◎異常気象時に、自分の身に起こる様々な危険について知るとともに、自ら安全な場所を判断し、身を守るための安全な行動ができるようにする。(B1, C1, E1)
- 異常気象時に考えられる自分の身の回りの危険箇所について考え、調査し、まとめて、その情報を発信することができる。(D1, F1)

3 指導にあたって

(1)単元観

東日本大震災は、停電や断水など、茨城県内はもとより、つくば市や小田地区にも甚大な被害をもたらした。また、北条地区の竜巻災害の際には、隣の北条地区が直接的に被災し、本校が避難所に指定され、実際に被災した住民が避難してきた。

このことから、児童は、地震や竜巻の恐ろしさを身をもって体験しているが、今後は、従来の方法による避難訓練や防災の講話を聞くだけでは、実際に災害に遭遇した場合に不十分であると考ええる。そこで、日ごろから、身近に起こることが予想される異常気象に応じて、どのように避難するかを自分で考え、判断及び行動ができるように意識しておかなければならないと考える。

現在、つくばスタイル科のコアカリキュラムとして、キャリアや環境など、今日的な課題を追究する学習を進めているが、防災教育を進める課題のひとつとして、小学校中学年の目標に照らしながら、他校との情報交換、ICTや関係する機関、外部人材を活用した情報の収集等を進めることが重要である。

また、防災意識の必要性を考えさせる学習の中で、命の大切さについて考えさせたり、自ら考え判断できる行動力やスキルを身につけさせたりすることは、将来の児童の生活において大切なことであり、「生きる力」を育むことにつながる重要な学習である。

(2)児童の実態（男5，女7 計12名）

本学級の児童は、1学期に社会科の学習で、地域の防火施設を調べスタディノートにまとめる活動に大変意欲的に取り組んだ。今回の学習においても、ICTを活用して児童の意欲を高め、自主的な活動ができるようにしたい。

防災についての意識調査の結果、児童が不安に思っているのは、身近に起きた竜巻12名、集中豪雨9名、台風5名、雷4名、土砂崩れ（自宅が山際にある児童2名）という結果である。

児童は、東日本大震災を経験してから、全員が、地震に対する不安や恐怖心をもっている。大きな揺れを感じたときは、全員が机の下に反射的に身を隠す行動が取れる。しかし、それが、授業中以外の休み時間や登下校、家庭生活の中で起こった場合についての行動については、あまり考えて

ない児童が多い。

学校で実施している避難訓練の際、いろいろな場面を想定したり、家族で話し合ったりすることの大切さについて指導してはいるが、実際に災害が起きたときのことを家族で話し合っている児童はほとんどなく、避難場所についても特に確認していないという状況にある。また、停電時のために懐中電灯などの準備はしていても、水や食料などまで常備している家庭は12家庭中3家庭だけで、保護者の意識も低い。この学習を機に、児童を通じて防災に関する保護者の意識も高めていきたいと考えている。

(3) 主題に迫るために

防災教育が叫ばれる昨今、「自分で危険を察知する、自分で危険を回避する、他と協力する」防災教育推進のために、今まで行われてきた避難訓練の枠を超えて、授業の中で、様々な異常気象が起こす危険を知ったり、その危険から自分の身を守ったりするための体験的な学習が必要であると考えた。この防災の授業を児童一人一人の成長を促すきっかけとしてとらえ、指導にあたって以下のような手だてを講じた。

第一に、異常気象の状況を身をもって体験している児童たちが多いが、画像や動画を通して改めてその危険性を知ること、児童から「こうすれば大丈夫だ、みんなもこうしよう、家族にも話そう」という気持ちを引き出したいと考えた。

第二に、他校との情報交換やゲストティーチャーなど外部との関係を多く取り入れることで、情報収集能力を身に付けさせたり、自分（自分たち）の問題だけではないことに気づかせたりしたいという願いがある。

第三に、グループの活用により、他の意見を尊重すること、自分の意見を主張すること、そして、多様な意見をひとつにまとめていくことを通して、言語力（コミュニケーションスキル）を身に付けさせるとともに、他の考えや感じ方を知って比較検討することで、自己分析をするときに多面的な見方ができるようにしたいと考えた。

第四に、画像や動画、ICT機器を有効に活用して、外部または第三者に自分たちの考えを発信することで、ICT活用能力を身につけさせ、次世代に活躍できるスキルを身につけさせたいと考えた。

今回の学習を通して、児童が、実際に災害にあったときに、自分から「こうすれば大丈夫だ。」と考えたり、友だちや家族にも「みんなもこうしよう。」「家でもこうしよう。」と呼びかけたりすることができる児童を育てたい。

4 指導と評価の計画（16時間扱い）

学 習 活 動		育てる力
I N A B O U T F O R I N	【課題発見】 1 異常気象の危険について知る	1時 A1：客観的思考力 A2：問題発見力
	【課題調査①】 2～3 自分たちの命を守る方法について考えよう ・G T	2～3時 D1：言語力 E1：情報活用力
	【交流・協働】 8～11 グループ毎に調査したことをまとめる	4～7時 D2：協働力 E1：情報活用力 E2：ICT活用力
	【課題調査②】 ・【交流】 4～7 調査の計画・準備 課題別のグループで調査を進める ・他校との交流	8～11時 D1：言語力 D2：協働力 E1：情報活用力 E2：ICT活用力
	【まとめ】 12 まとめたことについて、ゲストティーチャーからアドバイスをもらう (本時は12時) ・G T 13 自分の感じたこと・考えたことをワークシートにまとめる 【実際の調査】 ・GTから] ・命を脅かす異常気象の危険についての知識 ・危険予知能力 ・自己判断力	12～13時 B2：自立的修正力 E1：情報活用力
I N	【提案発信】 14 自分たちの方法で情報を発信する	14時 D1：言語力 E2：自立的修正力 15時 B1：自己認識力
	【評価】 15 振り返りを行う	
I N	【新たな課題設定】 16 理解を深めよう	16時 C2：革新性 F1：地域や国際社会への市民性